

「鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム」 (第3回会議)の開催結果について

令和5年3月9日
空港港湾課

「鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム」(第3回会議)が民間主導で開催されましたので、結果について報告します。

1 開催結果

- (1) 日時：令和5年1月31日(火) 午後2時30分から午後4時30分まで
- (2) 場所：鳥取砂丘コナン空港 国際線ターミナルビル 2F (出国待合室)
- (3) 構成員：【座長】鳥取大学教授 谷本圭志、【航空関連】ANAホールディングス㈱、ANAあきんど㈱、全日本空輸㈱、【交通事業者】西日本旅客鉄道㈱山陰支社、日ノ丸自動車㈱、日本交通㈱、鳥取ハイヤー共同組合、ニッポンレンタカー中国㈱、【観光団体・民間会社】鳥取商工会議所、鳥取県商工会連合会、(一社)鳥取市観光コンベンション協会、(一社)麒麟のまち観光局、(有)コナン・クリエイション(北栄町観光協会)、鳥取空港空の駅オヤジの会、鳥取空港空の駅女子会【オブザーバー】鳥取市、倉吉市、岩美町、八頭町、湯梨浜町、北栄町、鳥取県(空港港湾課、地域交通政策課、観光戦略課)【事務局・調査会社】鳥取空港ビル㈱、八千代エンジニアリング㈱ (以上、順不同・名簿順：出席者30名)
- (4) 結果概要：会議では、令和4年度のまとめである「鳥取砂丘コナン空港航空機利用・地域交通戦略」の内容に関する意見交換が行われた。(5)のとおり様々な意見があったが、出口戦略の基本的な方向性、実施計画、令和5年度以降の進め方について概ね承認を得た。
- (5) 主な意見：
 - 実証実験などは3年後と言わずに早めにやった方が良い。実施可能なものから進めた方が良い。
 - 空港でのイベント開催との連携について、将来的にはメニューを作ってホームページに掲載するなど、ぜひ開発して欲しい。これらのメニューを、今までの現金のやり取りではなく、あえて電子チケットで販売することを検討して欲しい。空港から率先して取り組んで欲しい。
 - 8の字路線は悪くないが、生活路線である湖山・賀露の2路線について、観光の趣旨の強い8の字路線にした場合、既存利用者がどのように感じるか懸念もある。実現性については関係者間の議論が必要である。
 - 既存のもの活用の他、路面や景観の良い「かっこいい空港ロード」での小型EV車や電動キックボード等のパーソナルモビリティが選択肢にあっても良いのではないかな。
 - 鳥取県西部や島根県においてはICカードが導入されている。お年寄りのICカードの利用率も高い。実はお年寄りこそキャッシュレスがなじみやすいといった部分もある。
 - 大きな視点として、いかに山陰地方として面で観光客を取り込むか、というのを考えていきたい。色々な方と連携しながら、MaaSも活用していければと思う。
- (6) 主な回答(事務局及び県)：
 - 3年間の検討・準備期間を提示しているが、空港のイベントやレンタサイクル利用時の電子チケット導入など実施可能なものから前倒して実施する想定で、令和7年4月からの大阪・関西万博を目指したい。
 - 県としては、まずはプラットフォームや各作業部会の中で具体的に思い切った施策を練って欲しい。次に、利用促進懇話会や行政などが各施策の必要性を判断のうえ、支援するという流れで進めていきたい。
 - 今後の作業部会の進め方として、引き続き鳥取空港ビル(株)が事務局となり、本県を含む関係者がプラットフォームの枠組みの中で連携しながら進めていきたいと考えている。

2 今後の予定

現在、会議意見を踏まえ作成した「鳥取砂丘コナン空港航空機利用・地域交通戦略」(別添：概要版)について、関係者と最終調整中である(令和5年3月末完成予定)。令和5年度は、「鳥取砂丘コナン空港航空機利用・地域交通戦略」に基づき、引き続き民間主導で出口戦略の個々の取組を進める。また、「安全・安心な空港運営」及び「空港を拠点とした賑わいの創出」を両輪として、本県も関係者と共に取り組んでいく。

